

【資料3】

総合的な学習の時間 学習指導案

平成16年9月22日（水）

場 所：1年教室

指 導 者：高橋 智子

単元名 「本や詩を読んで、思ったこと考えたことを伝え合おう」

単元の考察

1 生徒の実態

授業の観察記録や「COM」(コミュニケーション)の授業に関するアンケートの結果(資料2-1参照)から、コミュニケーションにかかわる能力の向上に強い関心を持ち、班単位での話し合いや、全体を前にした発表に積極的・意欲的に取り組む生徒の姿がうかがえる。他の人の話を「聞く」ことに関しては得意、と自己評価している生徒が多い反面、「論理的に」「批判的に」聞く、ということに関しては自信のない生徒が多く、「聞き取る」過程を深めることの重要性が強く感じられる。

2 単元観

これまでの半年間の「COM」の授業で、生徒たちは、コミュニケーションの技能や知識について学び、その必要性や重要性について理解してきている。「話す」ことについては、特に、「会話のマナー」(1人)・「劇の台本(戯曲)を読む」(2~3人)・「ステレオタイプを考える」(班単位)などの単元などで、また、「聞く」ことに関しては、「会話のマナー」「会話の基本スキル」などの単元を中心に学び、経験を積んできている(()内は活動の単位人数)。本単元は、これまでに培ったコミュニケーションにかかわる基本的な技術や態度を応用し、相互交流を深められるよう、設定されている。

「読書へのアニマシオン」は、子供たちの実態に合わせて、読む力を引き出すために系統的に考えられた手だて(日本語訳は「作戦」 原語は「*estrategias*」)である。指導者(「アニマドール」と称される)は、対象となる集団の読書に関する実態を見極め、共通して予読する本や詩、「作戦」を選択し、子供たちの主体的な活動を重視した支援を行う。この手だての大きな特徴は、次の三点であると考えている。

まず、楽しみながら自然に、読書活動へと誘えること(特徴)。

次に、この活動の実施においては、一人で考え、発言する時間が確保・重視され、それぞれの意見を尊重することがルールとされていること(特徴)。

最後に、積極的・主体的な参加とコミュニケーションの共同性が保証されていること(特徴)である。

子供たちは、共通の読書体験をもとに、まず、一人でじっくりと考える。指導者は、その時間を確保すると同時に、その考えや思いを受容的に受け止める。次いで、子供たちは、お互いの考えを伝え合い、仲間と協力し、目的を達成していくことになる。「読書へのアニマシオン」の活動では、一人一人が聞き、考え、そして仲間と意見を交わし合うための「聞き取る」活動を重視している。子供たちが、自分に割り当てられた質問や問題を、予読の内容と結びつけて内面化するためには、一人で静かに考える時間が、そして、ほかの人とのやりとりによって、考えを深め広げる時間が不可欠なのである。

「読書へのアニメーション」の目的は、子供たちを読書行為へと誘うことであり、活動を通じたコミュニケーション能力の向上は副次的な産物となるだろうが、本研究ではそこに着目し、聞き取る力を伸ばし、相互交流を深める効果的な手法として用いようと考えた。

実践授業の計画にあたっては、活動の単位人数、扱う教材等に多様性を持たせ、さまざまな形で相互交流が経験できるように配慮した。(表1)

表1：授業計画

授業名	主な活動の 単位人数	扱う 教材	内 容	主な「聞き取る」活動
A 「これ、だれのもの？」 9月22日(水)	全体	絵本	「アベコベさん」(万丸かサロ)を用いて、全体で絵本を読み味わった後、挿絵の一部を使い、物語を振り返る。	・注意深く聞き、絵本にかかわる質問について考え、教師とやりとりする。
B 「前かな?後ろかな?」 9月29日(水)	全体	小説	各自に配布された「夏の庭」(湯本香樹実)のキーセンテンスのカードを読み、考え、時系列に沿って座席を替える。全員で話し合い確認する。また、「オビ」を作り短い言葉で作品の魅力を表し、相互評価する。	・お互いに協力して整序を行う。 ・「オビ」に込められた思いについて考え、意見を交換する。
C 「どんな人?」 10月6日(水)	班 5~6人	小説	班ごとに「夏の庭」の主要登場人物の一人を担当し、ポスターセッションの形式で性格や家庭、その後の人生について考察、発表し、質疑応答を行う。	・登場人物についてのお互いの意見を交換し、考えを広げたり深めたりする。
D 「あなたは私と一緒に」 10月20日(水)	ペア 2人	詩	詩から抜き出された一行(Bカード) 残りの詩(Aカード)とを各自が持ち、黙読したり、読み上げたりしながら、詩を完成させる。	・詩を完成させるよう、お互いの意見を交換し合い、朗読発表について構想する。

3 指導方針及び学習への支援

「聞き取る」活動を充実させるためには、生徒にとって 緊張感がある 目的が明確である 目的と自分とのかかわりが明確である 聞きたくなる、伝える価値がある、の条件を満たすことが重要だと考える。そのため、授業実践にあたっては、以下の点に留意した。

扱う本や詩について...テーマが明確であり、親近感をもちやすいものを選ぶ。

板書やカードについて...活動の目的が明確になるように工夫する。

ワークシートの記入について...自他の活動を振り返るために必要と考えるが、必要最小限になるように配慮し、「書く」活動に時間を取られすぎないようにする。

活動の単位人数について...活動に応じて、適切に、活動の単位となる人数を変え、コミュニケーションを活発に行えるようにする。

班員の構成や座席について...全体 グループ(5~6人) ペア(2人) と相互交流の様々な形態を経験できるように配慮する。また、発言しやすいよう班員の構成や座席を工夫する。

授業中の「きまり」について...お互いを尊重し、誰かが意見を述べている時にはそれ

をしっかりと聞くようにする。また、発表の際には全員が発表にかかわるようにする。

4 単元における評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・班内の意見交換や全体での発表に積極的に取り組む ・相手の立場に立って考え、その意見を尊重する
問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを適切に聞き取り、自分の意見に生かす ・作品に出てくる論点を理解し、論理的に考え、発表する ・効果的な表現を工夫できる ・活動の目的と方法とを適切に理解し、楽しむ
国際コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナーやコミュニケーションの方法を理解している ・伝達技法の重要性を理解し、積極的に聞き取り、会話を発展させることができる

5 単元計画（全8時間）

過程	時数	学習内容 太字は授業名	支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
導入	1	「読書へのアニメーション」について知る 「マイペン」	<ul style="list-style-type: none"> ・班単位の活動形態をとることでコミュニケーションを取りやすくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組む（観察・ワークシートの記述内容）
	1	A 「これ誰のもの？」（「アベコベさん」を用いる） 挿絵の一部分を見て誰のどんな場面のものをか を答える	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発表の時間を確保することで自分なりに筋道を立てて考え、意見を最後まで言えるようにする。また、個々の意見を尊重することで意見を言いやすい雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の特性をふまえて答え、適切に教師とやりとりする（観察）
展開	2	B 「前かな？後ろかな？」 本文の一段落を記したカードを各自が持ち、全体で整序する 本の「オビ」を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・進行に関わる発言を最小限にし、一人一人の思考・判断を大切にする ・イスによる小さな半円状の形態を作ることで、お互いにコミュニケーションを取りやすくする ・「オビ」が持つ魅力や効果について話すことで作成への意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考え、自分なりの考えを持てる（観察） ・効果的な表現を工夫できる

	2	<p>C「どんな人？」 (「夏の庭」を用いる) 3人の主な登場人物について班ごとに 「どんな人かな?」「その後は...?」について考察し発表。質疑応答を行う。</p>	<p>める ・班員の構成について配慮することにより、意見交換を活発なものにする ・全員が発表にかかわることをきまりとすることで、より主体的な発表ができるようにする ・発表を聞く側から、積極的に意見を求め、聞き取る場面を充実させる</p>	<p>(観察・オビ) ・お互いの意見を出し合い協力する (観察) ・他の人の発表を積極的に聞くことができる(観察)</p>
まとめ	2	<p>D 「あなたは私と一緒に」 (9編の詩を用いる) ペアを組んで詩を完成させ詩の内容や表現について意見を交換し合う。</p>	<p>・対面させた2列のイスを用意しお互いにコミュニケーションを取りやすくする ・意見交換や音読練習の場所を複数用意することで意見交換や練習を行いやすくする</p>	<p>・効果的な発表に向けて協力する (観察・ワークシートの記述内容)</p>

本時の学習(1/8・2/8)

授業名 A 「これ、誰のもの？」

1 学習目標

- ・「読書へのアニメーション」について理解する。
- ・「アベコベさん」を注意深く読み、登場人物の特性について理解し、思ったこと・考えたことを十分に伝え合う。

2 準備

ワークシート、二人に一冊はいきわたる冊数の本(「アベコベさん」(ワニエスカ・サイゼン))・アイマスク

3 展開 以下の計画は(全体)を除き、各活動の性質上、クラスを二分割した16~17人の少人数での授業を想定しています。

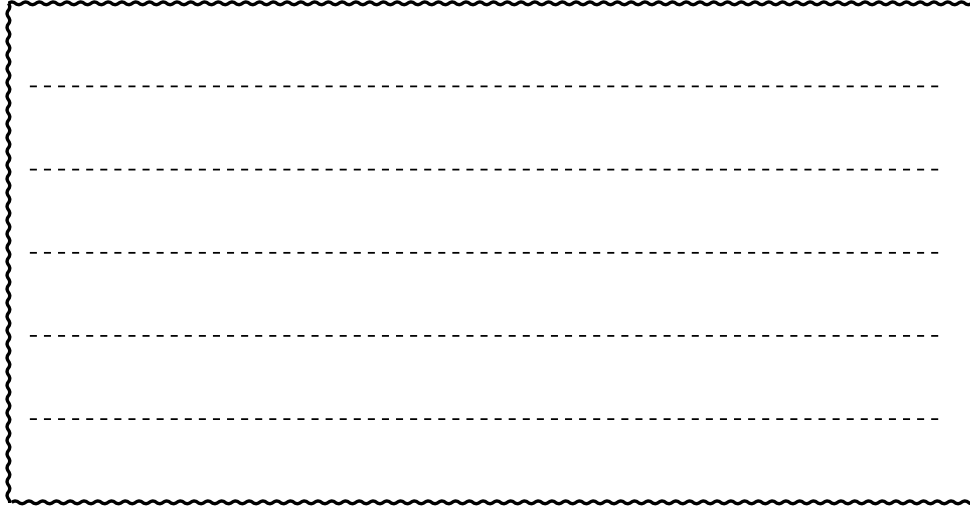
分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目
15	<p>本単元の学習について知る。 (全体)</p> <p>(4~5人の班ごとに着席)</p>	<p>・読書へのアニメーションや読み聞かせの経験の有無について質問し、実態を把握する。 (教室の移動指示)</p>	
25	<p>「マイペン」の手順を理解する。</p>	<p>・誰もが持つ「愛着」について話すことにより本時の学習に興味を持たせる。</p>	

	<p>各班で「マイペン」のゲームを行う。</p> <p>ワークシート（P.893）に感想を記入する。</p> <p>5 指名により発表を行う。</p>	<p>（アイマスクとワークシートの配布）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マイペン」の活動が「アイスブレイク」の役割を持つことについて説明し活動の目的を明らかにする。 ・それぞれがペンに対して持つ「愛着」について考える時間を確保する。 ・特色ある内容の数人を指名し、「マイペン」実物を見せながらの発表を促す。賞賛や質問により会話を広げる具体例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組む。（観察・ワークシートの記述内容）
<p>休 憩（10分）</p>			
5	<p>本時の活動内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イスを使って教師を中心に半円の形態を作ることでコミュニケーションを取りやすくする。 	
15	<p>「アベコベさん」の絵と文とを楽しみ、理解する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持って聞き理解する。（観察）
20	<p>物語にかかわる質問に答える。</p> <p>一人一人が、挿絵の一部を写したカードについて知っていることを自由に話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の方法や内容を「正解」を求めるものにならないよう配慮し、生徒の考えや思いを十分に引き出せるようにする。 ・指名された生徒以外は発言しないことをルールとし、一人一人の発言の機会や時間を確保する。ただし、その後の、「付け足したいことがありますか？」などの質問により、話したいことのある生徒の意見を引き出せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考え教師と適切にやりとりする。（観察）
5	<p>次時の学習内容を知る。（原状の復帰）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏の庭」を持参するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションする上でのルールを守る。（観察）

マイペン

組 氏名 _____

1 , 私の愛用のペンは、



です。

例：私の愛用のペンは、国産で100円で購入しました。よくある品ですが、字の太さとグリップの感じがとても気に入り、もう3年も使っています。同じものを買ってもなじむまで時間がかかりそうなので私は、換えインクを買って同じ本体を使い続けています。

2 , 自分のペンを見ごとあてることが できた できなかった

3 , 感想

本時の学習

授業名 B 「前かな？後ろかな？」(「夏の庭」第1回)(3/8・4/8)

1 学習目標

- ・作品に出てくる論点を重視し、すじみちをたてて考える。そして、小段落を時系列に沿って整序するために全体で協力し合う。
- ・「オビ」の効果について理解し、この本の魅力を効果的に表現する

2 準備

ワークシート、「夏の庭」(湯本香樹実)、「オビ」用紙、サインペン、マグネット

3 展開

分	学 習 活 動	指導上の留意点	評価項目
15	「夏の庭」のあらすじを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・説明したい生徒を募り、あらすじを確認する。できるだけ多くの生徒に質問しながら必要な補足を行い、共通の読書体験であることを実感できるようにする。 (・イスを使って教師を中心に半円形の形態を作ることでコミュニケーションを取りやすくする・教師の近くに予備のイスを二脚用意し「考え中シート」として考える時間が欲しい生徒の場所を決定する) ・「時系列」を用いた文を例示し、生徒の思考の助けとなるようにする。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容と目的を知る。 ・各自に配布されたカード(時系列に沿って小段落を人数分抜き出したもの)を黙読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考える時間や判断を尊重するため、本で確認したり、話し合ったりする必要はないことを話す。 	
20	一人ずつ読み上げ、順に席を替えてゆく。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に分かりやすいよう、カードを読み上げた後「 さんの前(後)に座ります」と決まり文句を使い着席するよう指示する。 (・「わからない」という場合は先頭よりさらに前の予備のイスに座り全体の流れを確認し、最後へ移動するよう話す。また、 ・座る場所に自信が持てない生徒は前後かと思われるカードを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて整序する。(観察) ・コミュニケーションする上でのルールを守る。(観察)

	15 全体でカードを順に通読し、内容を味わう。	生徒に再読を求めてよいと指示する。)・発言が重ならないよう促し、聞き取る姿勢を大切に する。	
休		憩 (10分)	
10 5 15 5	「オビ」の効果や魅力について理解する。 各自「オビ」を作る。 できた人から黒板に掲示する。(無記名) ワークシート(P.897)の記入を行う。 ワークシートを提出する。	・実際の「オビ」を数点示すことで、その効果や魅力に気付くようにする。視覚的な効果について話し、情報の受け手の反応を予想し、効果的な表現を工夫できるように促す。 ・全員の作品を掲示することで共通の読書体験をひとつの「形」にして表すことの面白さに気付かせる。 ・集約したものを後日配布し、作者に作成の意図などを聞くことを話し、次時への関心を喚起する。	・効果的な表現を工夫できる (観察・オビ)

夏の庭」ベストオビ賞

投票のためのメモ用紙

氏名

物語の内容が	分かる 5	少し分かる 4	どちらとも いえない 3	あまり わからない 2	わかりにくい 1
オビの表現に 工夫が	ある 5	少しある 4	どちらとも いえない 3	あまりない 2	ない 1
この本を	読んでみたく なる 5	少し読んで みたくなる 4	どちらとも いえない 3	あまり 読みたくならない 2	読みたく ならない 1
			合 計	(書ければ)感想	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					

本時の学習

C「どんな人?」(「夏の庭」第2回)(5/8・6/8)

1 学習目標

- ・登場人物について、お互いの意見を交換し合う。
- ・簡単なポスターセッションの形式を取り、聞き手と適切に交流する。

- 2 準備 ワークシート、(全員にいきわたる冊数の本(「夏の庭」(湯本香樹実))、画用紙、サインペン、
補助資料となるもの(「おじいさん」の家の絵、梨、メガネなど)

3 展開

分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目
15	前時を振り返り、投票の結果を知る。	・上位入賞の数点のオビを示し、作成者にコメント、全体には感想や質問を求め、会話を広げる。	
10	本時の活動内容を知る。	・この作品について質問し、文章に表れていないことを類推する楽しさを感じさせる。 (質問例:登場人物は身近によくいるタイプかな?ここはどんな町かな?) ・発表の形式にとらわれないよう、ポスターセッションの意義や方法については詳しくは説明しないようにする。 ・「おじいさん」について教師達が発表を行うことで、発表のイメージを持たせる。	
25	班ごとに割り当てられた登場人物について以下の項目に沿って意見を交換し合い、発表内容をまとめる。 (1)どんな人かな? (2)その後は...?	・全員が発表にかかわるようにすることで、個々の意見や工夫を生かし、主体的な参加を促す。 (・図で示したい班には予備の画用紙やサインペンを貸し出す ・補助資料の用意を示す・必要があれば各自引用を行うよう話し、引用と各自の意見とを区別するよう話す) ・机間を巡視し一人一人の考えや思いを引き出す	・お互いの意見を尊重しながら、積極的に話し合いを行う。(観察)

		ことで、主体的な参加を促す。	
休 憩 (10分)			
分	学 習 内 容	指導上の留意点	評 価 項 目
30	発表を行う。 (1班当たり質疑応答を含めて10分程度) ・発表からもっとも遠い班から1名が司会(A)となる。 (右図参照)	・机を後ろに移動させ、お互いのコミュニケーションを取りやすくする。 <u>黒板</u> 発表班 A (は各班) ・発表の長短を調整しながら生徒からの意見や質問を求めるが、その際、発表者と質問者に一往復以上のやりとりが生まれるよう二次的な質問を行う。	・発表の手順や方法を守って発表できる。(観察) ・全員が発表にかかわる。(観察)
5	活動を振り返る。	・全体の活動について、良かった点、改善点を指摘し、さらに意欲を持たせる。	
5	次時の内容を知る。		

本時の学習

D「あなたは私と一緒に」(7/8・8/8)

1 学習目標

詩の構成や内容について論理的に考え、完成された形になるように、また、より良い朗読発表ができるように、お互いの考えを出し合い、協力し合う。

2 準備 カード(内容:一行が抜き取られた詩(以下A)・

抜き取られた一行(以下B)これを1セットとし8編の詩を用意する)

3 展開

分	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 項 目
5	本時の学習内容について知る。	・イスを対面式の二列にセットする。	

		A	B	
15	Aから一人ずつ読み上げ、続いてBも読み上げる。			
5	詩を完成させるよう考える。		・ A Bカードの見本を提示し、手順を説明する。 ・ 個々の判断を大切にするため、相談する必要はないことを話し、緊張感と期待とを持って音読を聞けるようにする。	
15	詩を完成させる。		・ もう一度読んでほしいカードがあれば、そのカードを持つ人に再読を求めてよいことを話す。 ・ 詩が完成したペアは向かい合って座るよう話す。 (「わからない」場合は分からないグループを作り、話し合ってもよい。)	・ 積極的に読み、聞き、協力して詩を完成する。 (観察)
5	完成した詩を音読する。		・ これで良いか全体に確認する。(直すべきペアがあれば、理由とともに指摘するよう話す。)	
休 憩 (10分)				
5	本時の学習内容について知る。		・ 宮沢賢治「雨二モ負ケズ」の朗読CDを聞き、朗読の持つ力を感じさせ、興味を喚起する。	
30	詩を読み上げる準備を行う。必要に応じてワークシート(P.902)に記入する。		・ わからない語句は辞書を引いたり質問をしたりするよう指示する。 ・ 練習場所を確保する。 ・ 巡視し、助言する。 ・ 意見の出にくいペアには、言葉の意味 主題 読みの方法(強弱・緩急)などについて意見を出し合うよう話す。	・ お互いの意見を出し合い、積極的に話し合う。(観察・ワークシートの記述内容)
10	次時の内容を知る。		・ 次時は発表・投票を行うことを話す。 (カードは回収)	

(詩の朗読発表にかかわるメモ)

詩のタイトル

担当者名	
------	--

詩についてイメージをふくらませてみよう。

この用紙には思ったことを自由に記入し担当者同士で話し合ってみてください。
発表の際、聞いている人から質問が出たとき役に立つかもしれません。

《1 この詩はこんな詩だと思います》作者はこんなことを伝えたいのでは？

《2 特に印象的だった部分はここです》

《3 読む上で工夫した点はこんなところです》

《4 発表を終えて...》